

盛岡らしさと都市デザイン

東京大学大学院社会基盤学専攻
株式会社 上條・福島都市設計事務所
福島秀哉

自己紹介

福島 秀哉 博士（工学）／技術士（建設部門）
東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 助教
株式会社 上條・福島都市設計事務所 共同主宰



1996.3 盛岡市立松園中学校 卒業

1999.3 岩手県立盛岡第一高等学校 卒業

2006.3 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 修了

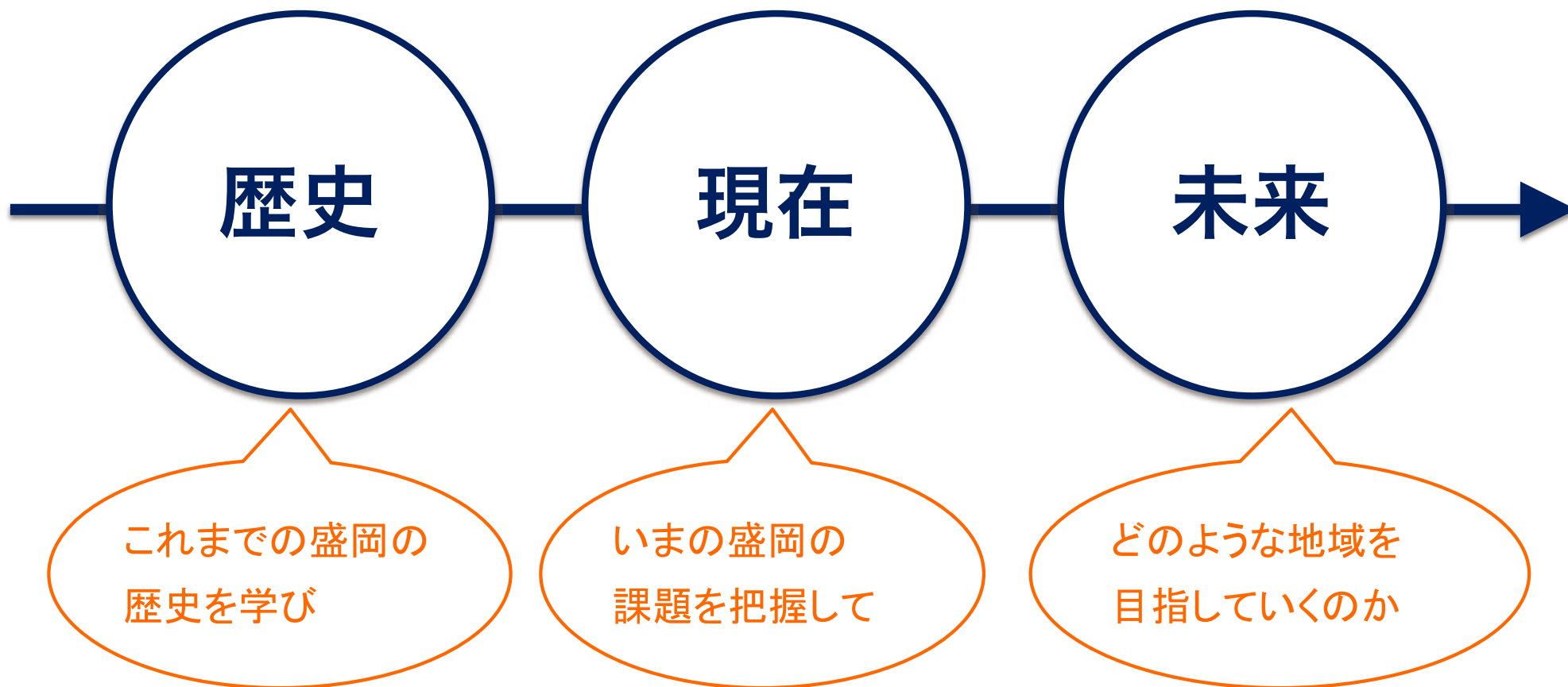
設計事務所、土木研究所等を経て現職。岩手県大槌町復興計画など地域再生に向けたインフラ・公共空間デザインに関する研究と実践に全国で取り組む。専門は景観工学・土木デザイン・地域計画。

現在 盛岡の都市デザインとの関わり

- 盛岡城址公園芝生広場整備懇話会 委員
- 道の駅もりおか 設計



岩手県大槌町の復興事業



歴史

近世

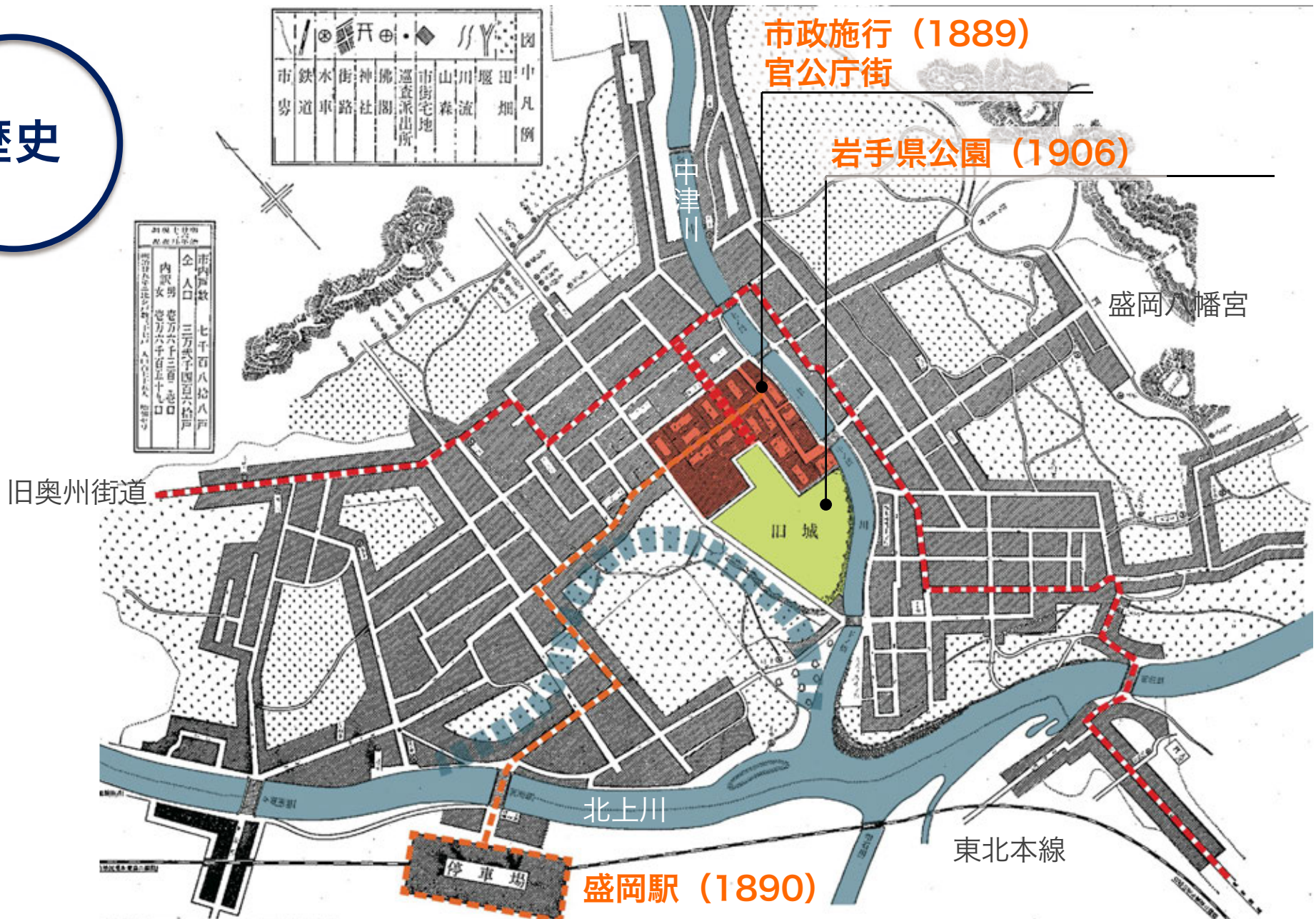
- 川による防御／舟運
(北上川、中津川、雫石川)
- 街路は周囲の山と関係づけられた＝山当て

周囲の自然地形を取り込んでデザインされた城下町



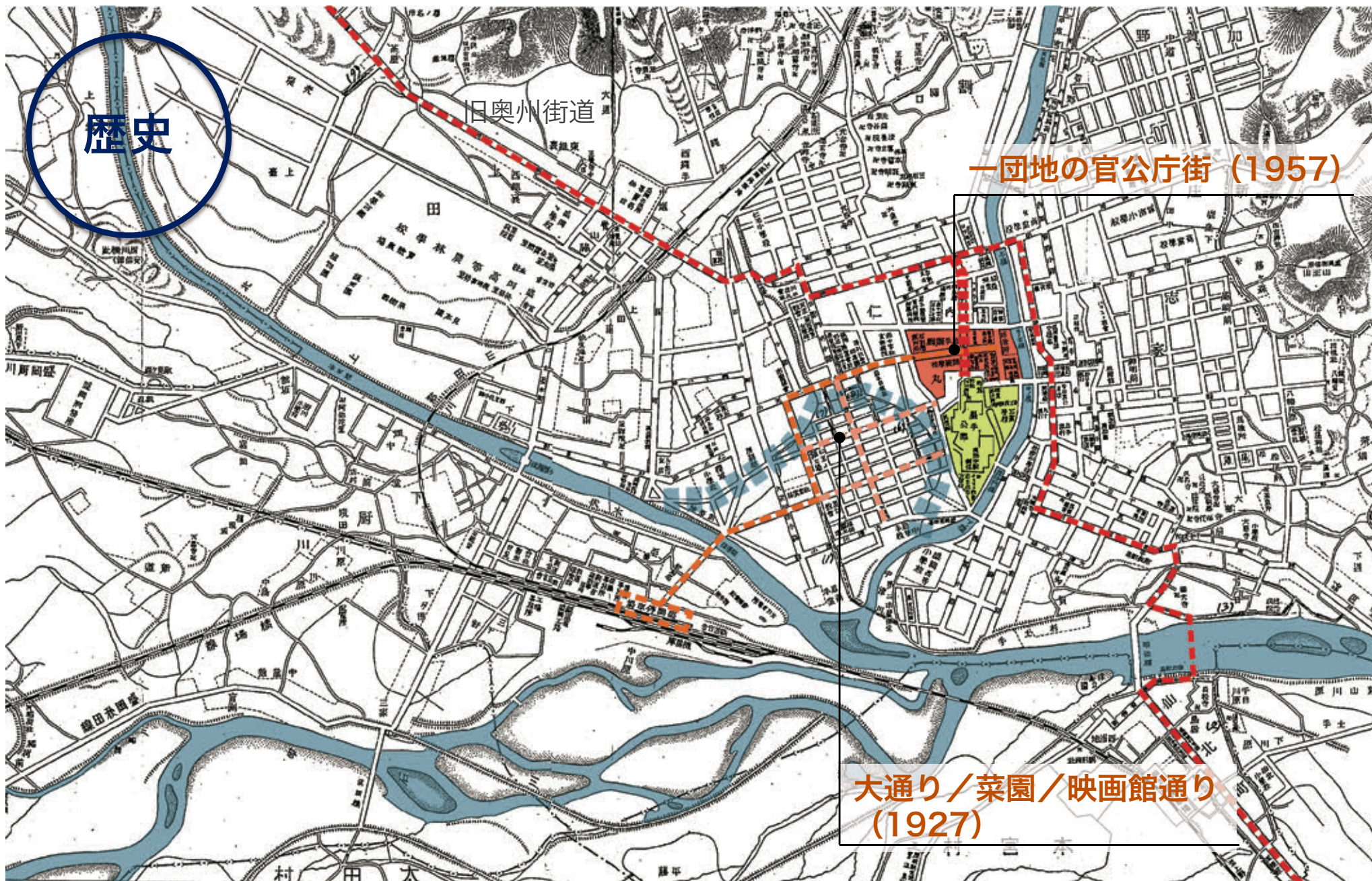
出典：正保城絵図南部領盛岡平城絵図（1644年）に加筆

歴史



- 1889 (明治22) 年 市政施行 直後内丸に官公庁街を形成
- 1890 (明治23) 年 東北本線 盛岡駅
- 1906 (明治39) 年 岩手県公園 (現盛岡城跡公園)

出典：改正盛岡市実地明細図に加筆

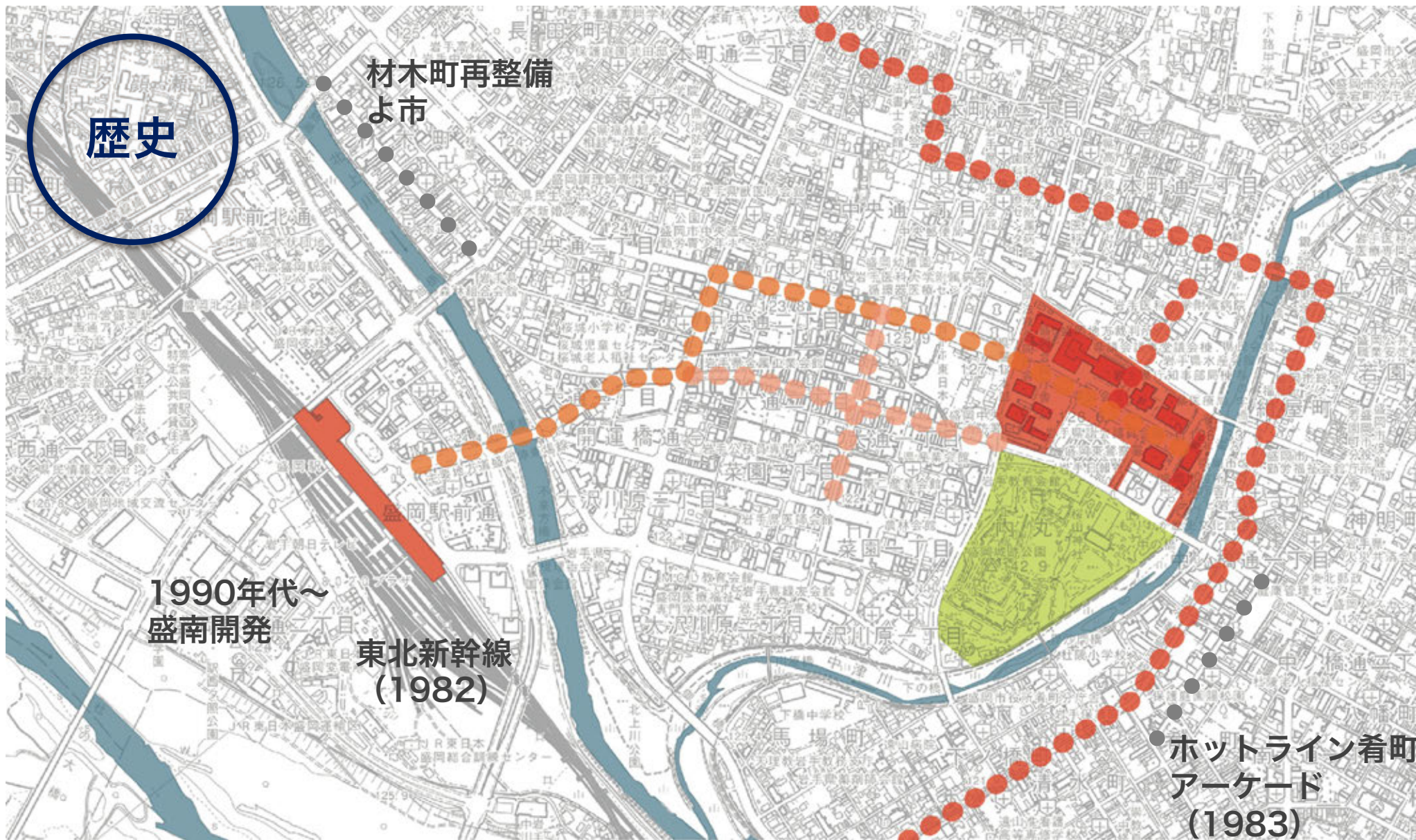


歴史

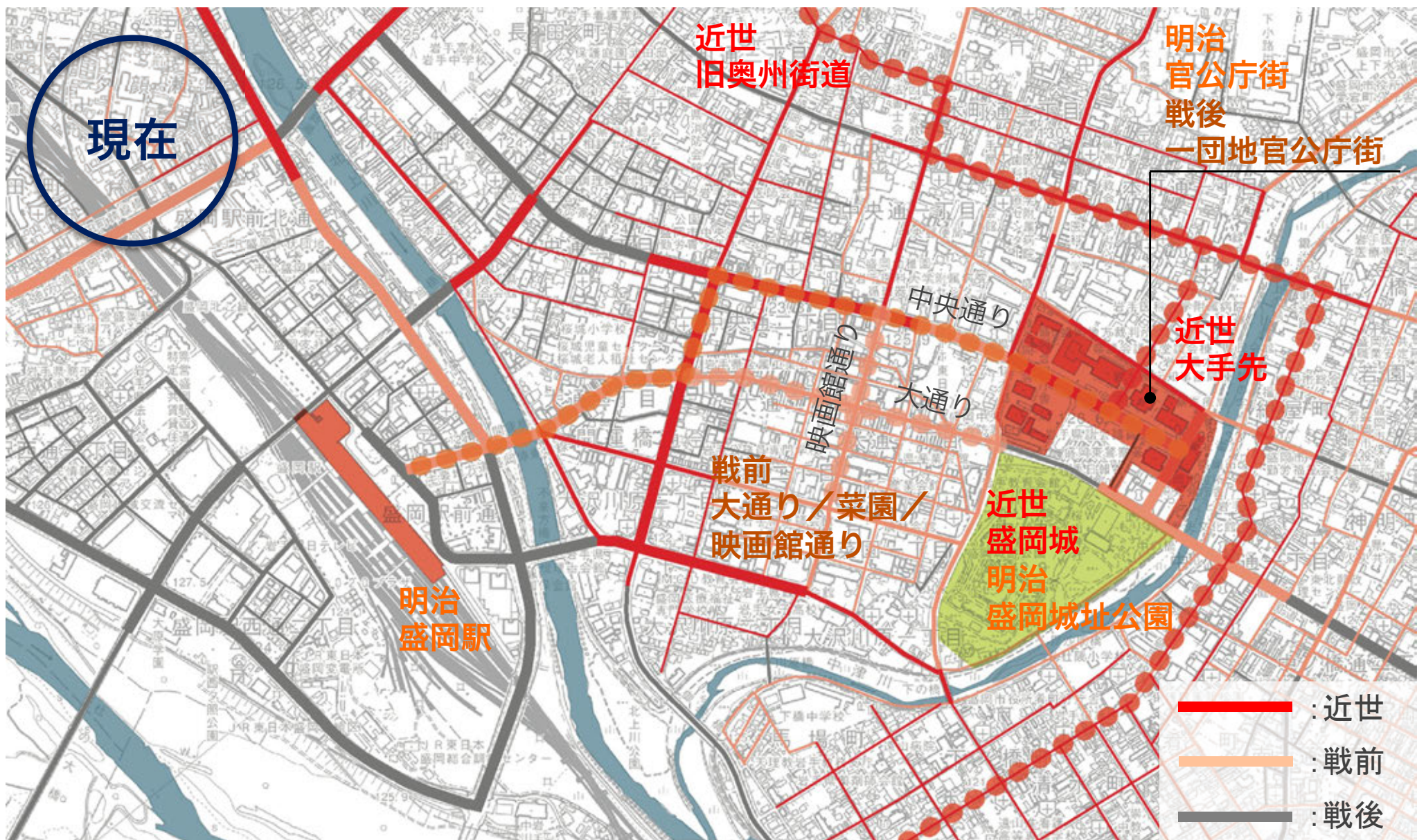
一団地の官公庁街 (1957)

大通り／菜園／映画館通り (1927)

1927 (昭和2) 年～ 南部土地会社による大通・菜園の開発
1957 (昭和32) 年 一団地の官公庁街施設 (官公庁街の更新)

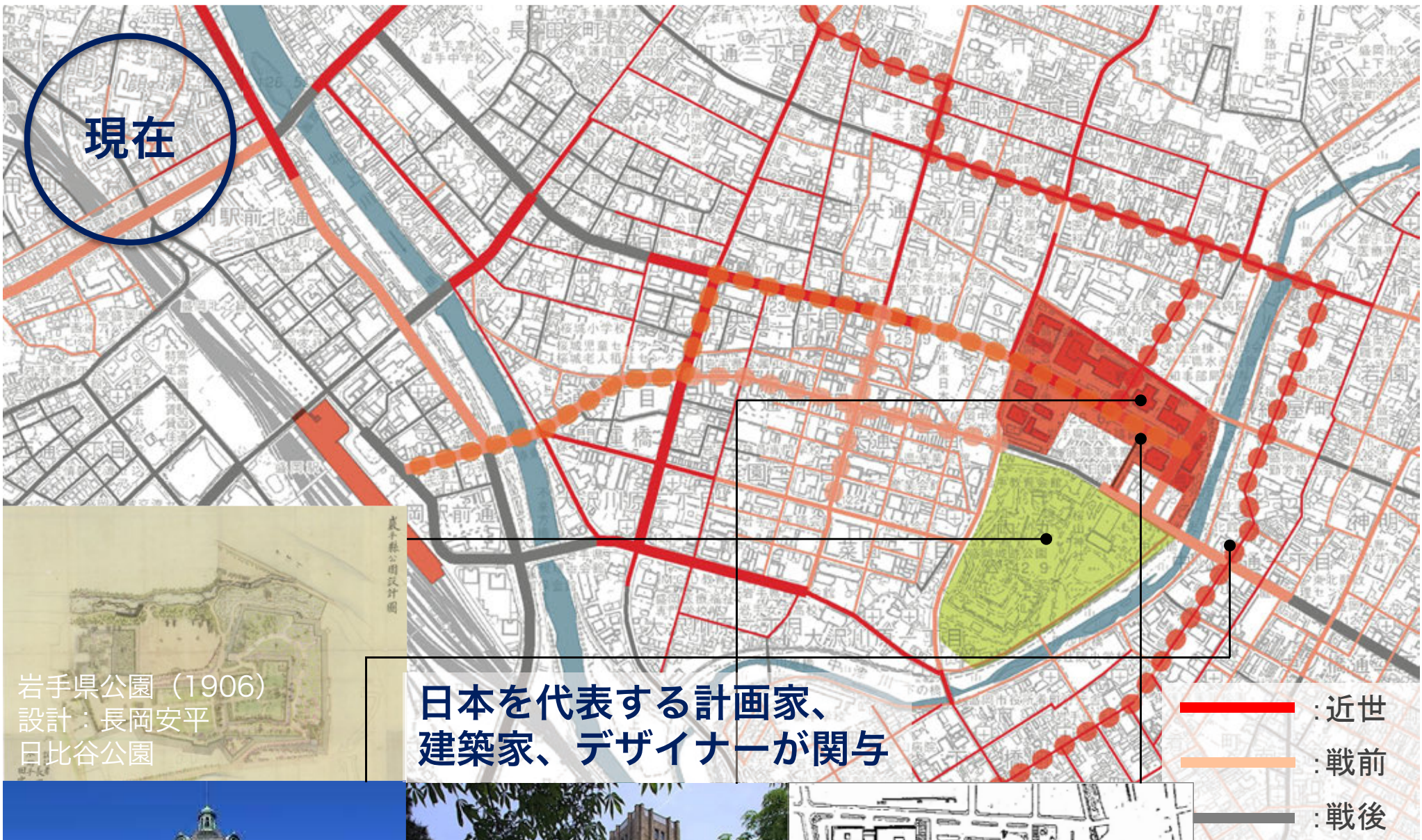


- 1960 (昭和35) 年 中ノ橋通りに盛岡バスセンター
- 1970 (昭和45) 年の岩手国体に向けた都市整備 (材木町、肴町など)
- 1980 (昭和55) 年 菜園地区に川徳百貨店が移転
- 1982 (昭和57) 年 東北新幹線開通 (盛岡-大宮)
- 1990年代～ 盛南地区の開発



城下町の構造の上に、複数の時代の都市デザインがパッチワークのように縫い合わされてできている街

上記図はHLC（歴史的景観キャラクタライゼーション：英国文化庁がおこなっている土地利用の年代測定により景観の時間的奥行き（Time-depth）を可視化することで、点としての文化財ではなくエリアとしての歴史的価値を評価する歴史的景観特性アセスメント手法）を簡易的に道路に適用して作成したものの。



現在



岩手県公園 (1906)
設計：長岡安平
日比谷公園

日本を代表する計画家、
建築家、デザイナーが関与

- : 近世
- : 戦前
- : 戦後



盛岡銀行本店 (1911)
設計：辰野金吾・葛西萬司
東京駅



岩手県公会堂 (1927)
設計：佐藤功一
日比谷公会堂 / 大隈記念講堂



一団地の官公庁施設 (1927)
計画指導：高山英華他
東大都市工学科教授

現在



イイツカ跡地



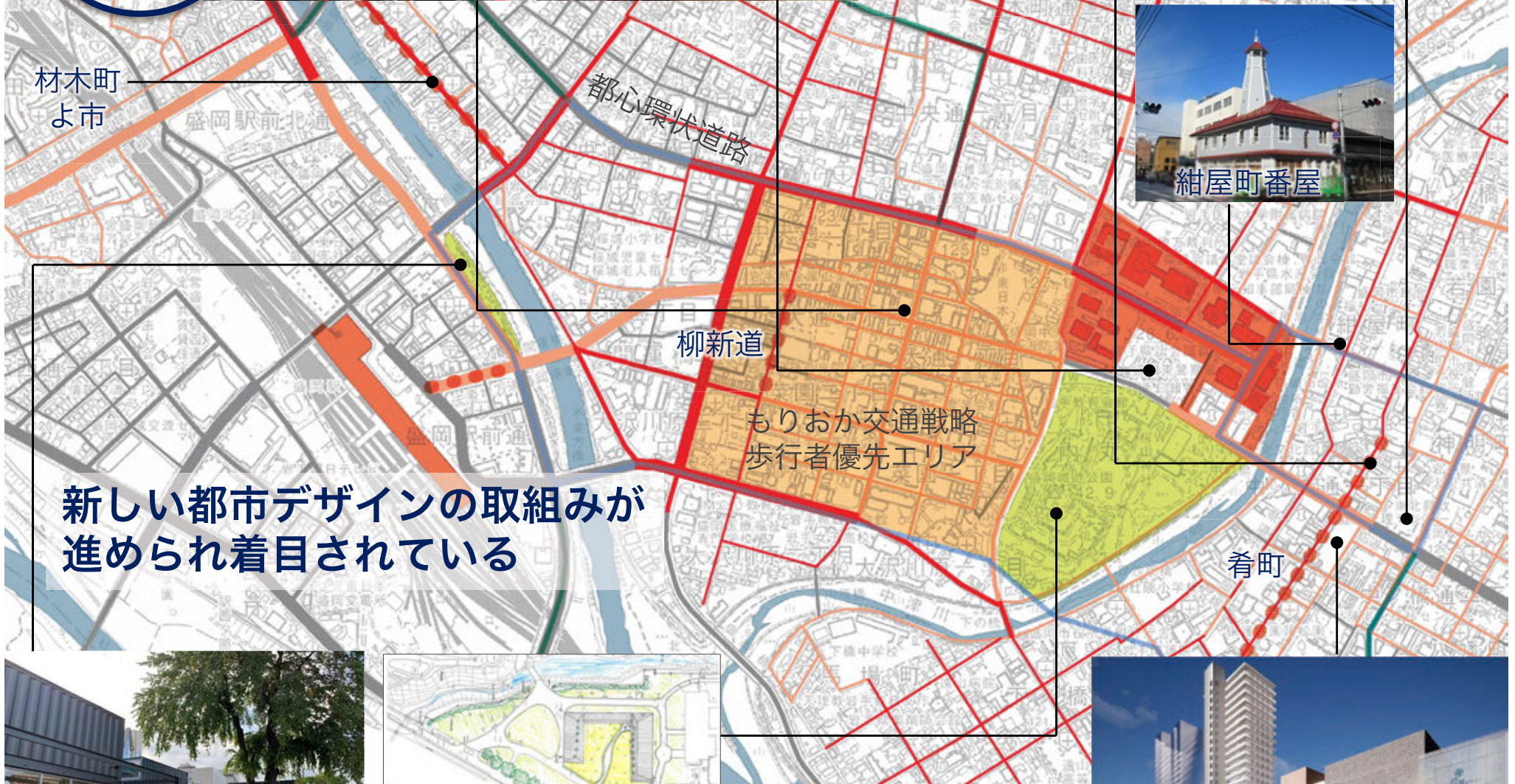
サクヨコ



葺手町こみち



盛岡バスセンター



材木町
よ市

盛岡駅前北通

都心環状道路

柳新道

もりおか交通戦略
歩行者優先エリア

紺屋町番屋

着町

新しい都市デザインの実践が
進められ注目されている



木伏緑地



盛岡城跡公園
芝生広場



monaka

未来

世界／先進地の都市デザイン

- 創造的復興
- グリーンインフラ
- コンパクトシティ
- ウォーカブルシティ
- SDGs未来都市
- 官民連携
- 企業都市
- IoT
- AI
- 自動運転
- ...



国内外で新しい都市に向けた技術やデザインの考え方・実践事例の充実
→自然と都市との関係やローカルな文化の価値が見直されている

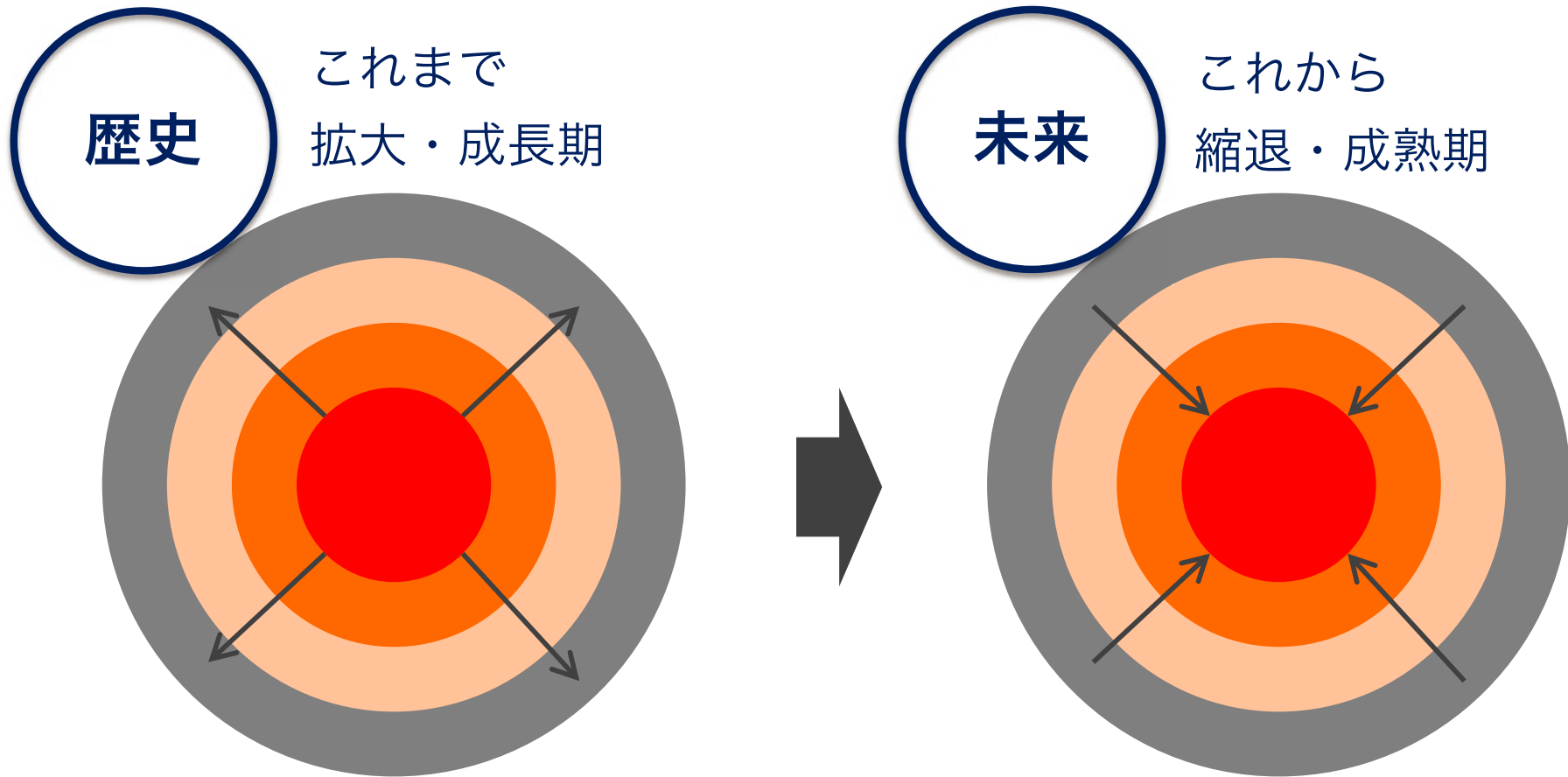
ここで…

盛岡市内丸地区まちづくりにあたって、

①これからのまちづくりで大事なことは？

②まちづくりを実現していくために大事なことは？

①これからのまちづくりで大事なことは？



常に旧来の都市空間を内包しながら
拡大の中で新しい都市デザインを実現

都市の生活や文化の基盤となってきた
中心部のあり方を考える必要

**都市の生活や文化の基盤となってきた中心部の変革では、そこから育まれてきた
アイデンティティ（らしさ）とは何かを意識的に議論するまちづくりが重要**

c.f.コンパクト+ネットワーク⇨都市サービス機能の集約→**アイデンティティの危機**



アイデンティティ=盛岡らしさとは？

近世城下町

- ・ 周囲の自然地形を取り込む
- ・ 五の字の町割り

「人々の往来が多いところでは、幹線道路を一の字型にすると往来に便利で人通りが増え、にぎわうかもしれない。でもそれだけだと裏通りはさびれてしまう。ましてや盛岡は往来がそれほど多いわけではないので、城を中心に前後左右に道路を造ることで**多くの人々が商いできるようにすることがよい**のではないか…」

北信愛 (のぶちか) (南部利直の重臣)



大通り・菜園地区の開発

盛岡百年の計を案じ旧藩主南部家より土地 (御菜園) 約2万2千坪を買受、大通り、菜園地区、映画館通りを開発。

大通は盛岡初のアスファルト舗装、街路灯、銀杏並木というモダンな街

都市文化に対する意識



住宅地だけではなく文化娯楽施設の集積
=映画館通り 池野藤兵衛、池野三次郎、三田義正

アイデンティティ=盛岡らしさとは？

暮らし



現代の盛岡の魅力

- 山と川に触れられる風景の豊かさ
- 細やかな通りに商いがある街の奥行き
- 文化を大事にする人のつながり



城下町の中心部を核に先人たちが築いた街の中で育まれてきた魅力

→歴史的建物やシンボルに比べて見えづらい



盛岡らしさは、自然と都市との関係やローカルな文化の価値が見直されているこれからの都市デザインの時代にあっている

②まちづくりを実現していくために大事なことは？

中心部のまちづくりの課題

- 長い歴史をもつため変化を受け入れづらい
- 計画の成否の都市全体への影響が大きい
- 各都市の固有性が計画へ与える影響が大きい
- 成功事例は未だ少ない

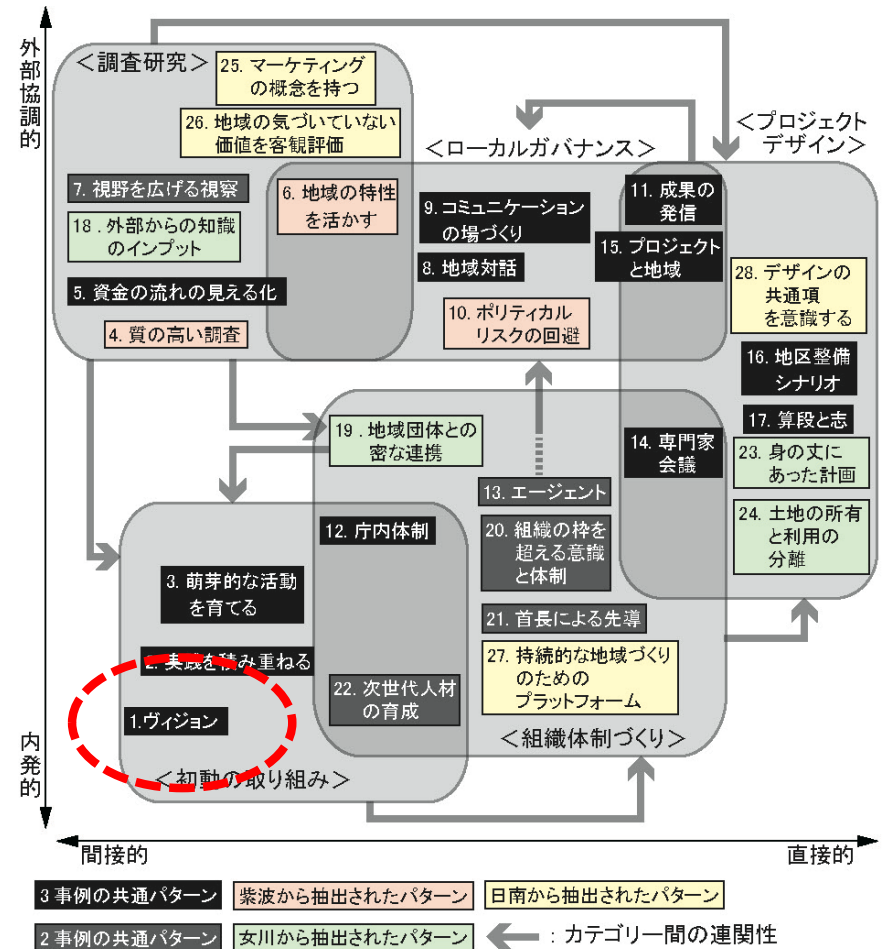
〈行政〉

地域のビジョンをもたずに、先進事例のコンセプトや計画手法をそのままコピーしたり、既往の分かりやすい評価指標や計画条件ばかり気にしてもうまくいかない

〈民間・市民〉

地域づくりへの主体性がない要望や短期的な利便性のみへの要求では次世代へのまちづくりにつながらない

暮らす人の実感と次世代への想いが重なった**オリジナルのビジョン**をもつことが大事



まちづくり先進事例※の共通項
=最初にヴィジョンをもつこと

②まちづくりを実現していくために大事なことは？



町方地区 デザインノート

町方の復興まちづくりデザイン方針

●施設名
 ・復興まちづくりデザイン方針
 ・デザイン方針の根拠となる住民意見 (1)～(5)：第1～5回大町WS (A)：第1回大町WS
 ②,④,⑤：第2,4,5回地区別WG

0 10 20 50 100m
 S=1:1,000(A1), 1:2,000(A2)
 ※公共施設の整備内容はイメージであり
 今後の検討内容により変更の可能性が有ります

〈町方大ケ口線〉
 ・公園側の歩道は、並木越しに運動している姿を眺めながら歩ける散策路になる
 ・災害時には内陸へ避難するための重要な道

運動公園施設と区画整理街路の接続については、日常利用、避難時などの観点から十分留意しながら検討する

〈災害公営住宅 向川原〉
 ・御社地に隣接するため、圧迫感が少なく、地域にあったデザインとする
 ・公園への圧迫感を軽減するため、災害公営住宅は御社地から離れた方がよい (3)

〈MLA (図書館・ふれあいセンター)〉
 ・歴史文化の発信を促進するとともに、地域の人連や子ども連など幅広い人連が集まる場所
 ・御社地に隣接するため、圧迫感が少なく、地域にあったデザインとする
 ・これまでは大町の歴史・文化を発信できていなかったため、歴史・文化に関する情報発信拠点にしたい (3)
 ・震災前のふれあいセンターでは、会議や趣味の集まり、子ども会など、いろいろな利用があったので、その代わりの施設になって欲しい (3)

〈旧役場庁舎跡〉
 〈産業集積地〉
 御社地周辺は、図書館や公共施設の整備と商店街が一体となった回遊性の高い空間デザインを目指す

〈末広町商店街 (幅員 12m)〉
 ・旧街道の歴史性を大事にしながら、買物や散策に来た人や、通学する子供連が楽しみを持って歩けるような賑やかな道路デザインとする
 ・段差が少なく高齢者でも歩きやすい舗装と商店の並ぶ並びで商店街らしい風景をつくる
 ・大町の商業地として一番歴史がある通りなので、町民に親しんでもらえるような通りにして欲しい (1)
 ・歩道はアスファルトではなく、末広町らしいデザインの舗装にして欲しい (2)
 ・高齢者や車イス利用者が安全に通行できる歩道にして、車道と歩道の段差をなくして欲しい (3)

〈6号公園 商店街入口〉
 ・農道、七軒町通り、末広町商店街の接点であり、旧街道の骨格を残す角に位置する重要な場所
 ・案内板やベンチ、緑地、休憩スペースなどを設けた商店街の入口 (顔) となる公園
 ・歴史性にも配慮したデザイン
 ・6号公園は商店街の入り口 (顔) なので、ベンチや植栽、案内板などを配置した小さな休憩スペースを設ける (2,4,5)

〈大樋小樋の境〉
 ・大樋町の歴史を伝える重要な骨格からの遊歩路としての利用
 ・歴史的な意味がある大樋小樋の境

〈7号公園 大町〉
 ・大町に多くあった湧水の記憶を活かした子ども連が安心して遊べる公園にしたい (A)
 ・公園周辺の歴史・文化を伝える情報発信拠点にしたい (3)
 ・震災前のふれあいセンターでは、会議や趣味の集まり、子ども会など、いろいろな利用があったので、その代わりの施設になって欲しい (3)

〈七軒町通り〉
 ・大町の歴史を伝える重要な骨格としての利用
 ・歴史的な意味がある七軒町通り



例) 「デザインノート」
 官民や事業単位ではなく地域単位のビジョンを描く
 ダイアグラムではなく空間イメージを伴う議論を



地域の価値を行政と地域で共有し、オリジナルのビジョンを議論し、個々の事業やまちづくりの活動を位置付ける





持続可能性と訳す場合、それは 範的かつ普遍的である。未来に理想の世界があり、そこからバックキャストで現在の在り方を模索する線形の世界観がそこにある。中略 どこか他人事の持続可能性を自分に引き付けるために、訳語として「継承可能性」を持ち出してはどうか。

先人たちが築き上げた盛岡で今を暮らすみなさんが、
盛岡らしさを育んできた都市形成の中心部のまちづくりで、
次世代に何をつなげられるかが今問われていると思います。

出典

正保城絵図南部領盛岡平城絵図（1644年）（国立公文書館デジタルアーカイブ）

改正盛岡市実地明細図

昭和11年盛岡市街図（市道路管理課所管）

巖手県公園設計図（『没後九〇周年記念 長岡安平史料群図面集 長岡安平の残した設計図 -わが国ランドスケープの嚆矢』（公益財団法人東京都公園協会2015））

建設省営繕局建築課「都市計画“一団地の官公庁施設”一盛岡市の計画例一」建築技術No.66、1957

他 盛岡市提供資料

参考

佐藤滋＋城下町都市研究体『新版図説城下町都市』（鹿島出版会、2015）

西村幸夫『県都物語 47都心空間の近代をあるく』（有斐閣、2018）

加藤章、高橋知己、藤井茂、八木光則『よくわかる盛岡の歴史』（東京書籍、2016）

山口敬太・福島秀哉・西村亮彦編著『まちを再生する公共デザイン インフラ・景観・地域戦略をつなぐ思考と実践』（学芸出版社、2019）

山崎満広『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』（学芸出版社、2016）

戸川卓哉，大西悟，福島秀哉，後藤良子，五味泰子：パターン・ランゲージによる環境・まちづくり先進都市に見られる共創的プロセスの記述-紫波町，女川町，日南市を対象として-，土木学会論文集D3，2022.3

宮脇勝：歴史的景観キャラクターライゼーションに関する研究-鎌倉市中心部の寺社・道路・街区・水路・土地利用の歴史的景観特性アセスメント-，都市計画論文集47，pp.607-612，2012など

大西悟：「継承可能性」、という試み、環境と文明、2020年12月号